

ハッ場ダム建設事業の検証に関わる検討報告書(素案)に対する意見

ハッ場ダムをストップさせる群馬の会

メモ

○今回の検証は、人口減少、少子高齢化、莫大な財政赤字という三つの大きな不安要因を持っている我が国の現状を考え、税金の使い道を大きく変えていかなければならないという認識にもとづいて『できるだけダムにたよらない治水』への政策転換を進めるという目的で設置されたものと考えていたが、報告書を見る限り目的に沿った検証が行われたとは思えない。

○利水の観点からの見直し

- ・東京都の1992年度の最大配水量は617万 $m^3$ /日であったが、2010年度は430万 $m^3$ /日になっている。多摩地域で長年使われてきた地下水約40万 $m^3$ /日も水道水源としてカウントされていない。
- ・群馬県は水源県であり、豊富な地下水に恵まれているのに、前橋市、太田市など各地で安全でおいしい地下水が捨てられ、ハッ場の水である表流水の割合を高めている。
- ・過大な水需給計画をもとに非現実的な利水代替案と比較するのではなく、各都県の水需給計画を現実に即して見直してほしい。

○洪水調節の観点からの見直し

- ・関東地方整備局が示した基本高水流量、目標洪水流量、河道対応流量、飽和雨量、治水効果などの数字が納得のできる理由がないまま変えられ、ハッ場ダムを作らんがための検証としか思えない。
- ・仮に基本高水流量を22000 $m^3$ とすると、今後利根川上流域に更に5~15基のダムを建設しないと利根川水系の治水政策が完結しないことになるが、そのようなことが可能なのか?
- ・今夏の台風12号が和歌山に記録的豪雨をもたらしたが、想定を超える豪雨により3つのダムは洪水調節機能を失った。ダムからの不適切な放流により被害が出る場合もある。
- ・これらの点についても検証していただきたい。

○現地の安全性について

- ・ダム予定地の脆弱な地質により、工事が難航しているところが多い。
- ・2007年12月には、トンネルを掘削中に落盤事故があり、作業員がなくなっている。
- ・昨年9月には暫定供用を開始したばかりの付け替え国道(川原畑地区)で落石事故が二度あり、通行止めとなった。
- ・本年8月7日の集中豪雨により、川原湯温泉駅前で大規模な土砂災害が発生。
- ・代替地の危険性も指摘されており、これらの問題について検証されていないのは大きな問題である。

○最後に

- ・奈良県の大滝ダムでは、住民が地滑りの危険性を言い続けていたのに、工事が進められ、2002年8月にダム堤体が完成したが、試験湛水中に白屋地区で地割れが発生し、38戸が全戸移転した。その後も地すべりの危険性が判明し、いまだに対策工事が延々と行われている。
- ・2008年6月に起こった岩手・宮城内陸地震によって大規模な地すべりが発生した荒砥沢ダム、地滑りが頻発するためにいまだに運用できない滝沢ダム、東日本大震災で決壊して8人の犠牲者を出した須賀川ダムなどダムの負の側面についても是非検証していただきたい。
- ・事業主体の国交省でない第三者機関で、これまでの河川行政に批判的な専門家も加えた公開の場での検証を切望する。これ以上、将来に禍根を残すダムを作るのはやめてほしい。